



夏至も過ぎ、早朝と夕方の快適に作業できる時間帯が減ってしまいますね。朝に肉体労働をすると、夕方は体力がなくてあきらめてしまう」とも多いのですが。

お米は今年も苗代を作つて苗を育てたのですが、温度が足りず大きくなりませんでした。冷たい水に直接当たらぬよう迂回水路をつくり、日光がないと難しいみたいです。分解されにくい石油製品はなるべく烟に持ち込まなければなりません。保温についても少し勉強しないといけないです。ですので、今年は予備で育てていた苗をいただいたりして何とか田植えをさせて頂きました。

ジャガイモは一部の品種（インカのめざめ）以外は順調に育っています。花が咲いた後、ミニトマトのような実がなるのにはびっくりしました。来年はこの実から種を探つて育ててみようと思います。そのうち大なすのようないいじやがいもができるようになるかも。



## 天龍村きりんちやん月記

小幡厚子（季輪）

お茶摘みのお手伝いも小さな田んぼの田植えもお陰様で無事に終わり、なかなか手を付けられずにいたカフェの準備に取り掛かり始めました。新しい田んぼにもあつという間にオタマジャクシが住み着き、何処からやってきたのか水生生物も徐々に増えてきて、その様子を見ているだけで、毎日ワクワクしています。

5月の末に、ふくろうの幼鳥に出会つと、子供の頃は「野生の工ルザ」に憧れていた生き物大好き、野鳥も大好きな私にとっては超ラッキーな出来事がありました。

師匠が「LINE」道端にへたり込んでる様子のふくろうの写真をアップされたので、見当をつけて救出に！

カンカン照りの道路端に居たので、まずは安全な日陰に移動しようと、手袋をして両手でそっと持ち上げても、真ん丸な目で、ぱーっと上目遣いに私の顔を見ているだけで、何の抵抗もせず。

日陰の安全そうな場所にそっと置くと、我に返ったのか、やっと抵抗の様子を見せたので、ちょっと安心。

ネットで調べたり、今は巣立ちの季節ということだったので、元気はありました。そのままにして私は退散するのに、帰りにそこを通つた時にはもう姿が中なつたので、頑張って飛んで行ってくれたと思うことに。里山に移り住まなければできない貴重な体験。

元気に成長して欲しいと願っています。

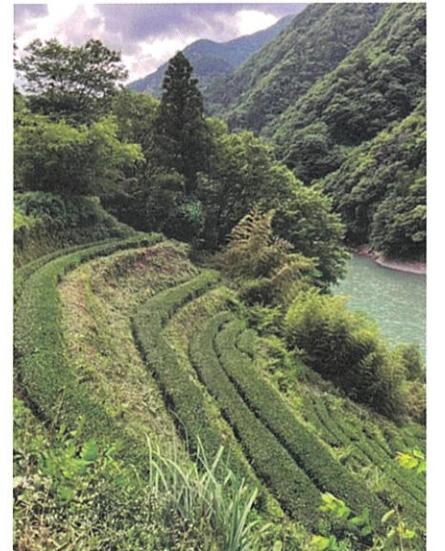


## 五月からの活動

篠田大樹

茶摘みが終わると袋詰めなどの商品作りやていざなすの定植準備が始まり、あわただしい毎日が続いています。二十日には定植が終わり、草刈やお茶の整枝も始まりました。七月には紅茶用の収穫があるのでそれに合わせてならした整枝をしたところと樹勢回復の為、深く刈つたところがあります。

六月からはお茶摘みツアーも始まりました。去年は一人で行つていましたが今年はツメモガキのツアーや復活しにぎやかになっています。徐々に「コロナ禍前の日常が戻つてきている気がします。ツアーやには耳の聞こえない方を含め、手話サークルの方々も来てくださいました。小学生の時に授業で少し手話覚えて以来、二十年以上全く使う機会がなかった手話を使うことが出来、耳の聞こえない方にも喜んでもらえたのでうれしかったです。



四月から始めた養蜂活動ですが、手探りながらも順調に進んでいます。普段の作業内容ですが、生育状況や巣箱への出入りの確認、周辺の草刈りなどを中心に行なっています。また、「蜂に刺されない？」とよく聞かれますが、機嫌が悪かつたり、扱いが雑だと必ずと言って良い程刺されます。機嫌が良いと写真の様に手に乗せても何もしません。

とても可愛らしい蜜蜂ですが、花粉媒介者として、植物などの生態系に大きく関係しています。環境活動の一貫としても、しっかりと管理していくたいです。そして快適な環境を提供する代わりに、少しばかりハチミツを頂ければと思います。

（文 治部 太一）